

## 五省訓

- 至誠に悖るなかりしか。
- 言行に恥ずるなかりしか。
- 気力に欠くるなかりしか。
- 努力に憾みなかりしか。
- 不精に亘るなかりしか。

## 五省会ニュース

発行所

医療法人財団五省会西能病院

〒930 富山市五福1130

TEL (0764) 41-2481(代)

発行人 西能正一郎

## 鬼手佛

五省会ニュース第五号(七月二十日発行)の巻頭「祈りの手術」である日曜日には、富山医療大の善意の応援で、技術

の結集が評価され、各方面から大きな反響を呼んだ。手術を受けた中浜浩一君(新潟大生、新潟市五十嵐一ノ町6-4-3-6)と、父親の中浜次作さん(函館市日の出町22-36)も、これを読んで、「これが重大だったのをはじめて知りました」と、「鬼手仏心」(西能病院待合室の額)、本当にうれしい気持ちでいっぱいです」と、つぎの便りを、十月月中旬に相次いで西能院長のもとによせてきた。それには、医師団そして看護婦、X線技師、検査技師の職員たちの手術陣にたいする感謝の念がじみでていた。

## 認識を決定的に

## 自分の甘さを痛感

【浩一君から】新潟へ戻

つてからもう五週間がたちました。おかげさまで日常生活にさしたる支障もなく、毎日をすごしております。

ただ、握力が依然として弱いのは不便ですけど。

入院中は、院長先生ならびに副院長先生に大変お世話になりました。

六月七日は日曜日だといふのに、先生方の迅速な处置によって全身麻痺になるところを救われました。僕は事故当初は、そんなに大きなケガでもないんだろうと思つていました。先輩にも

同じような事故にあって、ちゃんと回復した人がいるからです。でも、回りの人から「お前は大変な大ケガだつたんだ」とい聞かされると、事の大変さを認識し始めた。

そして、決定的だったのは、あの五省会ニュースを見たときでした。

読んでいるうちに、神経が高ぶつてくるのが分ります。

分知っているつもりだったのに、改めて活字を見せら

## 息子の幸福を約束 善意の医術の力が

【次作さんから】思えば去る六月七日の忘れもしない日曜日、富山からの電話で、長男浩一が大ケガをしました。西能病院で手術中のことです。

妻と共に富山へかけつけ、長男を見て、これは大変な

長男を見て、これは大変な

長男を見て、これは

## 健康法の問題 (6)

味で危険なものはない。

知っているが、私は好きなだけ酒を飲み、タバコは喫煙多にならないペースモードである。

バコは喫煙多にならないペースモードである。

これは個人の生前の違いであって、

よく務めであります。

医療、健康に関する要

事は地域社会の皆さまの

よき務めであります。

矢野二郎

とり過ぎて高血圧になる人は多く、食塩を一割ぐら

いだれ、残りの八割の人にはほとんど影響が

ないらしい。ただ、これを見分ける簡単な方法

事務団は本年二、三月に百歳以上の長寿者、

一千八名について調査した結果を発表して

いるが、この通りに通じることは、

でも食べる、物ごとにこだわらない、ぐら

ういうわけであるから、もう少し医学が進歩

であつて、とくに長寿の秘訣と

あつて、とくに長寿の秘訣と

# 美しいものが 見えてきた

&lt;第七信&gt;

松下英勝

美しいものが  
見えてきた

（第七信）自分は、一日を大切に、精一杯今を生きております。

富山を、西能病院を、一日たりとも忘れた日はありません。何か嬉しいこと、ほんの僅かも体に進歩があった時、伝えたい、喜んでほしい、キツと喜んでくれる院長や、皆さまにしたい！

その気持ち

（第八信）五省会ニュース第六号が届き、むさぼり読みます。黒瀬氏、井上氏の近況も、両氏は自分と殆ど同時期入院した人達です。車で、誘いにきてくれる方あります。私たち

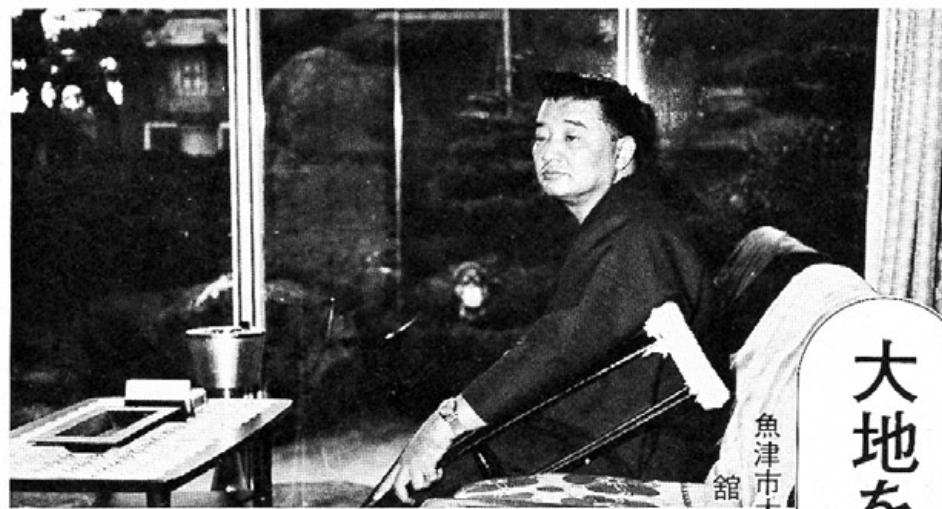
（愛は地球を救う）で、こんなことも自分で出来るよ!!と、誇しげに語るのと一緒です。自分が便りもせずいた間、「五省会ニュース」が届き、読み終え、お札状をと思うのですが体がついてくれません。手紙の書けぬ体なら、電話にて、せめてお札の言葉だけでもと思い、でも、そのには突き進めます。

## 伝えたい、喜んでほしい

（第七信）自分は、一日の都度やめました。自分は、人の誠意というものは、容易に電話をかけるより、たとえ時期を、タイミングを逸しても、一字一句、文章にて自分の体で腕で、この指で手紙を差します。

（第八信）五省会ニュース第六号が届き、むさぼり読みます。黒瀬氏、井上氏の近況も、両氏は自分と殆ど同時期入院した人達です。車で、誘いにきてくれる方あります。私たち

庭をながめながら、くつろぐ館さん

魚津市大光寺二区  
館 信 義さん

# 大地を踏む

(7)

（だつそ）の難病で右脚をそつくり取る右股関節離断の手術を西能病院で受け、義足をつけない松葉杖で退院したのは昭和五十一年六月二十一日であつた。

（右足のない松葉杖の生

活がはじまりましたが、長

い間苦しんできた激痛から開放され、天国の気持ちでした。

そして、なによりも、からだをいたわることに心がけた。無理をすれば、左足に再発の恐れがあるからだ。だから、なるだけ外へそこで、好きで習った書を生かすことを考えた。（筆

じめ年賀はがき、暑中見舞い、他の宛名書きも引きうけている。

これまでに、魚津市民委員の法名録（四百二十三氏）十冊を書きあげた。各方面的表形状、感謝状をはじめ年賀はがき、暑中見舞い、他の宛名書きも引映る。政治ものなど好きな

持っているときが一番楽しいです。無心の境地にもひたれるともいう。

これまでに、魚津市民

委員の法名録（四百二十三氏）十冊を書きあげた。各方面的表形状、感謝状をはじめ年賀はがき、暑中見舞い、他の宛名書きも引映る。政治ものなど好きな

持っているときが一番楽しいです。

これまでに、魚津市民委員の法名録（四百二十三氏）十冊を書きあげた。各方面的表形状、感謝状をはじめ年賀はがき、暑中見舞い、他の宛名書きも引映る。政治ものなど好きな

持っているときが一番楽しいです。

これまでに、魚津市民

## 周囲の「心」に包まれて

### 筆に生き甲斐を見つける

（病院では、いろいろと厄介をかけます）

（病院では、いろいろと厄介をかけます）